

ビバーク訓練@天狗岳

メンバー：

一泊組：的埜，遠藤，犬塚

日帰り組：村山，木下

2010/02/20

合庁 6:00-唐沢橋 6:00/6:35-しらびそ小屋 8:00-中山峠 10:00-東天狗岳 11:40/12:10-西天狗岳
12:30-黒百合 13:30/13:50-ビバークポイント 14:10-雪洞完成 16:00

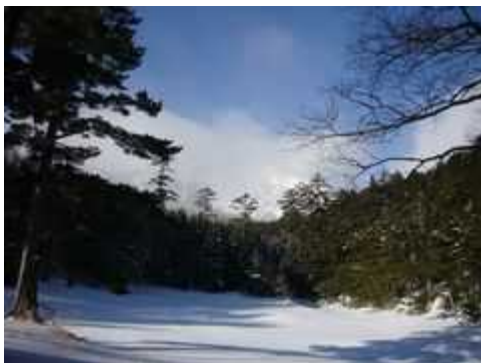
2010/02/21

ビバークポイント 6:10-しらびそ 7:20/8:20-唐沢橋 8:50

稲子湯近くの唐沢橋を出発し、まずしらびそ小屋を目指した。



しらびそ小屋から硫黄岳を望むと雪煙が舞っており、稜線はかなりの風が予想された。



一瞬前まで見えていた天狗東壁も雲に覆われた。



ビバーク訓練ということで、焚き火の形を確認。どうか樹林帯まで下れば、とりあえず暖はとれる。



気持ちよい天気の中樹林帯歩き。



稲子岳南壁 .

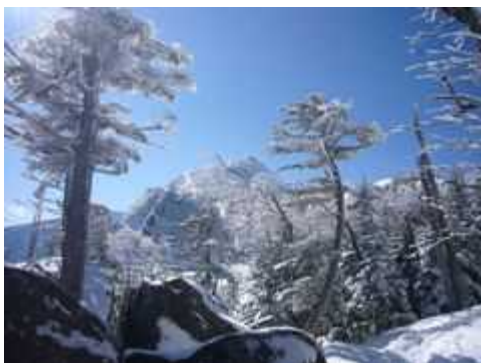
中央に見える左カンテをその内登ろうという話を
的埜さんとした .

雪上歩行について村山さんからアドバイスをもら
ったが , その習得にはまだ時間が掛かりそうであ
る .



なんだかんだで中山峠 .

若干風は吹いているものの , 特に問題なし .
しらびそ小屋にいた頃が風のピークだったのかも
しれない .



中山峠から見た東天狗岳 .



木々のオメカシも綺麗だ .



双耳峰の天狗岳 .



木の枝がカリントウのようになっていた .



山の話は尽きない.



東天狗岳より北側.
奥の蓼科山も綺麗だ.



南側には硫黄岳, 奥に赤岳, 阿弥陀岳も見えた.
去年の4月にも見た風景でそこまでありがたみなし.

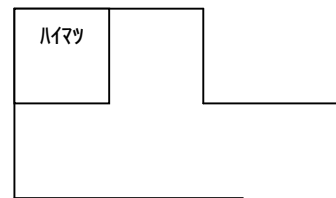
日帰り組とはここで別れ.
西天狗岳にも登り, 一度黒百合ヒュッテを目指した.
黒百合ヒュッテより20分ほど天狗よりのところにビバークポイントを見出す.



この斜面に横穴式雪洞を掘る.



男3人, 2時間弱で完成.



平面図



入口は1m四方弱程度か。



中は2m四方の高さ1m, ...のつもりがハイマツを発掘したために1m四方強はハイマツが占拠した。

中はハイマツ臭かったが、直慣れた。



雪洞は壁収納ができ、すごく便利だった。

今回は日帰り装備でのビパークというテイで、寝袋ナシ。

ツェルトに包まる的埜さん、銀マットの上でサバイ

バルシートに包まる遠藤さん。

自分とはいうとサバイバルシートに包まる予定だったが、かなり古いサバイバルシートは広げる段階でボロボロになった。

サバイバルシートがサバイバルできていなかった。とりあえず何もない状態でやってみた。

20:40 消灯。

室内の気温はほぼ -10 を保っていた。

しかし、一番入口側だったために隙間風が寒い。

1時間ほど寝たところで目が覚めた。

手足の指先は冷たいが、普通のテント泊でもこの程度の寒さは感じる。

なんだか拍子抜け。

的埜さんに了解を取り付け、もう少し寒さを求めて、外に出てみた。

-20 程度だろうか。

風はなかった。

とりあえず座ってみた。

星空が綺麗だ。

寒さで全身が震えだすが、15分くらいしたところで震えが止まった。

徐々に低体温症になってきたということか。

指先の冷たさが徐々に体幹へと迫ってくるのが分かる。

といっても、まだまだ指先の感覚は生きている。

もう15分ほど経つと、さっきよりもかなり小さい震えが来た。

本当に低体温症になってみんなに迷惑掛けても困るので、雪洞へと戻った。

コンロを焚いて、しょうが湯を飲んだ。

太ももくらいまでをシュラフカバーに突っ込み(靴が引っ掛かり、首まで上げるのが面倒だった)、寝た。

30分ほど寝たところで再び目が覚めた。

太ももくらいまでしか突っ込まなかったからか、あまり温かさは変わらなかった。

以後、シュラフカバーを使うことはなかった、
ときどき喋りながら時間を潰した。
そして再び寝たが、やはり30分程度で目が覚めた。
いよいよ体幹の温度も下がってきたようで、気持ち悪くなってきた。
とりあえず体操座りでラジオを聴きながら、時間が経つのをひたすら待った。
4時頃パーティーの方々も起床。
結局睡眠時間はトータルで2時間程度。
寒さはどうにかなった。
今回は食料・ガスとも制約を設けなかったが、実際はそれらに制約が掛かっている可能性が高い。
その点ではかなり甘い状況だったかもしれない。
‘明日も停滞かもしれない...’、‘食料はたったこれだけか...’、そんなことを考えながら過ごしていれば、肉体の前に精神がやられそうな気がする。
やはり‘生き抜く強い意志’が生死を分けるのかもしれない。
実際にこの状況を体験することで得るものは大きいと感じた。

のんびりしながら、6時過ぎに雪洞を後にする。



夜も明けてきた。
2時間程度の睡眠でも特に行動には問題なし。



もうしばらくすると天狗岳も朝焼けに燃えることだろう。



しらびそ小屋まで下り、東壁を眺めた。



今度は東壁の尾根をやるという話も的埜さんとした。
山は僕らを引き付けてやまない。
しらびそ小屋には佐久山の会の方もおられ、話を聞いた。
駆け下りて唐沢橋。
帰りの車の中ではアクビ連発。

眠かった。

帰って、シャワー浴びて、寝た。

目が覚めると、やや風邪っぽかった。

すぐに風邪薬を飲んだので、次の日の仕事には支障
が出ずによかった。

まだ未体験の人は是非とも体験することをお勧めしま
す。